# 地域の課題を考えるプラットフォーム 公開勉強会 「^みんな~ のロームシアター京都をめざして」

# 第3回゛みんな゛の客席って? — 多様な観客へのアプローチを考える

## 【第1部 ゲストによる事例紹介】

発表① 文さん (NPO 法人 DANCE BOX 事務局長)

(あや)といいます。今日は「"みんなの"客席って?」というテー 文:みなさんこんにちは。NPO法人 DANCE BOXの文 マですが、劇場側に近い話も多くなるかと思いますがよろしく

見れば劇場だとはわからないような立地です。 観です。商店街にある商業ビルの4階にありますので、外から 受けています。スライドでご覧いただいているのが、劇場の外 現在は、客席数10席の民間劇場を運営しています。家賃を払っ の空白を経て、2009年に神戸市の新長田へ移転しました。 し、公設置民営で劇場運営を行なってきました。その後1年間 2002~07年まで活動を行いました。この間にNPO法人化 続けています。その後、ミナミから通天閣エリアに引っ越し、 運営する小劇場の月曜日を借りて、コンテンポラリーダンス 団体です。コンテンポラリーダンスを通じて、優れた作品の紹 て自主運営しており、神戸市からは機材協力という形で協力を の事業を始めたことでした。この事業は、24年目を迎える今も ていく活動を行なっています。活動のきっかけは、民間会社が 介やアーティストの育成、劇場が地域社会に果たす役割を考え DANCE BOXは1996年に大阪のミナミで創設した

アーティストと、そうでないアーティストが共に取り組んだ「循 (2007~08年) にスタートしたプロジェクトが障害のある 先ほど1年間の空白についてふれましたが、このとき

> たかなと感じています。 活動によって、いわゆる舞台芸術シーンへのアプローチができ ティクバ+循環プロジェクト」として公演を行いました。この [KYOTO EXPERIMENT]に呼んでいただき「劇団 ルリンの劇団ティクバと共演することとなり、2012年には のあるパフォーマーともつながる機会となりました。その後べ 呼んでいただき巡回公演を行いました。これを機に、 だき、東京は世田谷美術館、他にも神奈川、愛媛の松山からも 品をクリエーションしたのです。この作品を各方面で評価いた した。その中で 『º.I.· (にあいこーるのじじょう)』という作 捉えられてしまい、きちんと質を問われることが少ない状況で マンス作品を作っても、公演というより「発表会」という形で 環プロジェクト」です。当時はまだ、障害のある方とパフォー 他の障害

#### 地域の劇場を目指して

## お客さんがいないなら自ら出向けばいい !

目は「地域におけるDANCE BOXの役割」についてです。 KOBEといいます)を始動させたのですが、新長田への移転 DANCE BOXの活動(劇場名はArtTheater dB 文:この経験を経た上で、2009年から神戸市新長田での 評価いただく経験はありましたがが、「地域に根ざした劇場」と 台芸術分野におけるDANCE BOXの役割」について、2つ 移転に際して、考えたことが2つあります。ひとつは あらためて自分たちの活動を考え直すよい機会になりまし 劇場運営をしてきましたので、舞台芸術の文脈で劇場を

日程 : 2020年3月21日 主

ゲスト:文(NPO 法人 DANCE BOX 事務局長)

岸本匡史(公益財団法人としま未来文化財団事業企画担当マネージャー) 柿塚拓真(日本センチュリー交響楽団 コミュニティプログラム担当マネージャー)

司会 長津結一郎(九州大学大学院芸術工学研究院 助教

奥山理子(みずのき美術館 キュレーター)

いう意味では、まったくの新しい挑戦となりました。

るかもしれません。特に朝鮮半島、ベトナム出身の方が多いで げられます。在日外国人は約1割程度、最近はもっと増えてい していること、高齢者が多いこと、在日外国人が多いことが挙 街が多いこと、 における劇場の役割を考えるところから始めました。 ます。そして最後に〝粉もんの町〟です。私たちは、 す。また、近年はクリエイティブな活動をする若者も増えてい 1km程度のグローカルな地域です。特徴として、下町で商店 新長田は神戸市長田区の一地区で、人口約10万人弱、 路地・銭湯が多いこと、阪神淡路大震災を経験



文氏

ティスト養成講座があるのですが(プロの振付家/ダンサー/ ことすらない人たちです。このメンバーに「国内ダンス留学の 願いしました。演者は漁師、ガラス職人、建築家、コリアンダ 出はイデビアン・クルーの井手茂太(いでしげひろ)さんにお に発表した『花道ジャンクション』という作品です。振付・演 そこで「来てくれないのなら、自ら出向こう」「町を舞台にした 住民のひとりとして、生活と芸術活動がミックスしている状況 住みました。つまり、DANCE BOXのメンバーも10万人の 劇場移転にあたり、私もスタッフもそれぞれ劇場の近くに移り 劇場の距離を近づけること考え、取り組んできました。一方で、 れる)」という想いがあったから。私たちは、何よりも人々と なられる前の時代でしたが)参加されています。この企画を行 の町の人々に参加していただきました。現在の区長も(区長に 振り付けてくださった作品に、大人から子どもまで総勢約80名 制作者を志す人を対象に、劇場における実践を通して、作品づ 神戸」というDANCE BOXが2012年に創設したアー が来てくれることを狙いました。こちらの写真は、2015年 た。次に行ったのは「脈のありそうな人、町のキーパーソンと の人に見ていただいて認知度を上げるところから取り組みまし トと一緒に、商店街や駅前でパフォーマンスして、通りがかり らのダンス部の生徒さんや、関西を中心に活動するアーティス ンスの名門高校(神戸野田高等学校)がありましたので、こち 企画を考えよう」と考えたのです。まずは、劇場の近くに、ダ がいません。まずは「お客さんの開拓」からスタートしました。 ビルの4F。外から見ると、劇場があることが全くわかりませ ったのは、「舞台に立つことで、劇場が近くなる(身近に感じら もの。インドネシアのジェコ・シオンポさんというダンサーが 4名が出演しています。写真で真ん中の男性が漁師さんですね。 くりに取り組み、上演する8ヶ月間のプログラム)この卒業生 ンサー。コリアンダンサーの方以外は、今までダンスを踊った 上がってもらうことで、その方たちの家族や知り合い、町の人々 つながる」企画です。彼らと繋がるだけでなく、彼らに舞台に ん。もちろん認知度もゼロの状態ですから、お客さんそのもの こちらの写真は、商店街でパフォーマンスを行なったときの 先ほど写真を見ていただきましたが、現在の劇場は商店街の

で事業展開をしているわけです。

#### 「こんにちは共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」 2019 年度の活動

いている主旨を読みます。 ます。今日はお手元にチラシをお配りしていますが、ここに書 す。共生社会と書いて「ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ」と読み ぐちゃのゴチャゴチャ)』というプロジェクトを実施したので を受託しまして、委託事業として『こんにちは共生社会(ぐちゃ りました。文化庁より「障害者による文化芸術活動推進事業 文:わたしたちの活動は2019年度に、新しいフェーズに入

ます。 ジェクトでは、銭湯のように、違いをこえて、いろんなひと が集まる場所をつくりたいです。そしていろんなひとの間に、 に期待します。 ふたつとして同じものはない身体を洗います。このプロ 銭湯では、ひとつの場所にいろんなひとが集まり、服をせいる。 性別、国籍、障害のあるなしなど、ひとはそれぞれ違いせいで、ことはましょうがい

チャ)」のスタート、土台づくりからはじめます。 今年度は、「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴ

応があるか」「車椅子での来場対応があるか」「子連れ可能スペー うか」「UDトーク(コミュニケーション支援アプリ)による対 も工夫しました。ピクトグラムで、各会場・各イベントごとに みをしたのです。いろんな方に客席に来ていただくため、表記 ラシを作るところから、私たちは初めてとなるいろんな取り組 元にこの企画を周知するチラシをお配りしていますが、このチ クショップ」「公演・イベント」を実施しました。皆さんのお手 オフミーティング」にはじまり、さまざまな「公開講座」「ワー スがあるか」を記載し、どうやったら普段なかなか会場に来ら 「おむつ交換対応トイレがあるかどうか」「手話対応があるかど このプロジェクトでは、多様な人々の共生を考える「キック

れない客層にも想いを届けられるかを考えていきました。

もらえるか)」を研究した上で、本番を迎えています。本番当 変えることで、集まる人々が変わる」ということを念頭に置い 覚障害者への情報保障を行う無料ソフト)を活用しました。 は「IPtalk (アイピートーク)」というソフトウェア 日は、どうしても言葉で説明しなければならない内容について うまく当事者の方に届けられるか(ワークショップを楽しんで る当事者の方々と事前に何度も相談をしながら、「どうすれば、 を楽しむワークショップです。後者に関しては、聴覚障害のあ 写真は聴覚障害のある方、ない方が一緒になって音楽やダンス いきました。ご覧いただいている写真は、身体の障害がある方 て、多様な方たちにアプローチできるようプログラムを組んで ある客席・劇場に集まる人に関していえば、「企画の切り口を (肢体不自由の方)を中心にしたワークショップです。 こちらの その後、具体的な事業を進めたわけですが、今日のテーマで

す。その間、 動できない方もいらっしゃるので、そちらの施設でも「出前パ さんを劇場から歩いて迎えに行きました。もちろん施設から移 を迎えに行こう!」ということで利用者のおじいさん、おばあ 会場の近くにサービス付き高齢者住宅があるので、「お客さん す。2日目の夕方にはショーイング(発表)を行ったのですが、 サ!〟)というホームレスダンスチームを招いて行ったもので プも行いました。東京からソケリッサ (正式名 新人Hソケリッ さわってみたり、ごはんを食べてみるなどの試みも行いました。 ので、視覚障害者の方と一緒に町を歩いて、作品を「触覚で楽 品の展示やパフォーマンスを展開)が行われていた時期でした ことにはなったのですが…。 フォーマンス」としてひと踊り、ふた踊りほど繰り広げていま しむ」ための見学ツアーを行いました。アイマスクをして花を (阪神淡路大震災から20年を迎えた2015年に始動した芸術 また、「ソケリッサと踊ろう!」という2日間のワークショッ イベントもいくつか実施しています。ちょうど「下町芸術祭 神戸の下町エリア(長田区南部)を舞台に、現代アート作 会場のお客さんにはかなりの時間待っていただく

他にも、私たちスタッフも含めて「多様性に関して、 知恵を学べる場を持ちたい」という思いから、 公開講座

テーマでご登壇いただきましたね。も「障害者のパフォーミングアーツの現在とこれから」というも4回実施しました。今日の司会者でいらっしゃる長津さんに

今日は障害者さんとの事例を多くご紹介していますが、在日外国人の方を対象にした企画も行っています。下町芸術祭のプログラムの一環として「多国籍ごちゃ混ぜカラオケ大会」という企画を行ったのです。どの国籍の方もいれば、インド出身でから! 参加者には、ベトナム出身の方もいれば、インド出身ででアーティスト・イン・レジデンスをされていたシカゴのダンでアーティスト・イン・レジデンスをされていたシカゴのダンでアーティスト・イン・レジデンスをされていたシカゴのダンマーから来日されたばかりの人などが写っています。奄美大ンマーから来日されたばかりの人などが写っていますが、在日の民謡やペルーの楽曲など、一部の曲は生演奏で歌っていた意の民謡やペルーの楽曲など、一部の曲は生演奏で歌っていただきました。

他にも義足のダンサーである森田かずよさんのコーディネートで、韓国から「TRUST Dance Theater」というダンスチームを招聘しダンス公演を行いました。森田さんは前年に韓国・ソウルで滞在制作を行い、「TRUST Dance Theater」と一緒に作品を作られたのですが、その再演に加え、来日してから新作も作っていただきました。韓国のダンスチームはダンサーが7名で、そのうち3名は障害者、加えてスチームはダンサーが7名で、そのうち3名は障害者、加えてついただきました。

現在のDANCE BOXでは日常的なものになっています。も国籍もさまざまな方が集まっていますが、意外とこの風景は、今ご覧いただいているのが公演の打ち上げの写真です。世代

の形でキックオフミーティングを実施したのですが、このミー思いました。一連の企画をスタートする前に、7月に一般公開思いました。」についてお話をしたいと思います。私たちはゴチャゴチャ)』というプロジェクトを、私たちが「誰と一緒にゴチャゴチャ)』というプロジェクトを、私たちが「誰と一緒にゴチャゴチャ)』というプロジェクトを、私たちが「誰と一緒にゴチャゴチャ)』というプロジェクトを、私たちが「誰と一緒に対している。

天イングを「featuring新長田アートマフィア」と銘打ったイングを「featuring新長田アートマフィア」と銘打ったイングを「featuring 新長田アートマフィア」と銘打ったイングを「featuring 新長田アートマフィア」と銘打った人の本部長、福祉事業所の経営者、サービス付き高域の医療法人の本部長、福祉事業所の経営者、サービス付き高域の医療法人の本部長、福祉事業所の経営者、サービス付き高域の医療法人の本部長、福祉事業所の経営者、支援学校を卒業した後にいく福祉事業齢者向け住宅の経営者、支援学校を卒業した後にいく福祉事業かの代表でアウトドアの専門家、一級建築士、市役所職員、カムの代表でアウトドアの専門家、一級建築士、市役所職員、カムの代表でアウトドアの専門家、一級建築士、市役所職員、カムの代表でアウトドアの専門家、一級建築士、市役所職員、カムの代表でアウトドアの専門家、一級建築士、市役所職員、カムの代表でアウトドアの専門家、一級建築士、市役所職員、カムの代表でアウトドアの専門家、一級建築士、市役所職員、カムの代表でアウトドアの専門家などに加え、アートNPO理事メラマン、ホームセンター専務などに加え、アートNPO理事メラマン、ホームを対しています。

がとうございました。

・キックオフミーティングでは、障害者・高齢者・在日外国人・キックオフミーティングでは、障害者・高齢者・在日外国人・とがとりでは、広く町をひらいていくためのキーワードを創出しては、 原書者・高齢者・在日外国人・キックオフミーティングでは、 障害者・高齢者・在日外国人・

#### [質疑応答]

います。いることが、会場の皆さんにもよく伝わったのではないかと思いることが、会場の皆さんにもよく伝わったのではないかと思ございました。これだけ多様な活動を、現在進行形でなさって長津:短い時間で多様な活動をまとめてくださり、ありがとう

教えていただければと思います。 と思って聞いておりました。講座の最終回には総括もされたようですが、このプロジェクトに参加された方と文さんとの間でと思って聞いておりました。講座の最終回には総括もされたよは、DANCE BOXさんにとっての集大成でもあるのかな、奥山:文さんが最後にお話された「アートマフィアの取り組み」

ための枠組みづくりを大切にしてきました。例えば、キックオ身が当事者になること、「自分ごと」として考えていってもらうプロジェクトでは、私たちの意識として、町の人々や参加者自文:エピソードではないのですが、「こんにちは、共生社会」の

ていただいているわけです。す。つまりパネラーへの事前ヒアリングも含めて、企画側に回っす。つまりパネラーへの事前ヒアリングも含めて、企画側に回っ外の残り3部は、アートマフィアの方に司会をお願いしていまフミーティングは全部で4部制にしていたのですが、第1部以

す。よろしくお願い致します。
す。よろしくお願い致します。では続いて、二番目のゲスト長津:ありがとうございました。では続いて、二番目のゲスト長津:ありがとうございました。では続いて、二番目のゲスト長津:ありがとうございました。では続いて、二番目のゲスト長津:ありがとうございました。では続いて、二番目のゲスト

#### 発表② 岸本匡史さん

|野外劇場運営課長| |野外劇場運営課長| |野外劇場運営課長

## 視覚障害がある方との取り組みから

制作者オープンネットワーク)」の理事も務めています。 制作者オープンネットワーク)」の理事も務めています。東京都豊 特に獲力で組織している「ON・PAM(舞台芸術 舞台芸術制作者の方で組織している「ON・PAM(舞台芸術 要は芸術制作者の方で組織している「ON・PAM(舞台芸術 のプロジェクトを始めるようになり、現在に至ります。また、 でいるアター・アクセシビリティ・ネットワーク)」の理事、 のプロジェクトを始めるようになり、現在に至ります。また、 でいるアター・アクセシビリティ・ネットワーク)」の理事、 のプロジェクトを始めるようになり、現在に至ります。また、 でいるでに至ります。また、 のプロジェクトを始めるようになり、現在に至ります。また、 でき当事者の方と一緒にアクセシビリティ・ネットワーク)」の理事、 第台芸術制作者の方で組織している「ON・PAM(舞台芸術 サ台芸術制作者の方で組織している「ON・PAM(舞台芸術 りた者が見います。東京都豊

の改善についての話をしたいと思っています。また、2019劇場に多様な方が来られるようにするためのアクセシビリティきた、障害のある方と共に作り上げてきた舞台作品の事例や、今日は豊島区の劇場「あうるすぽっと」で私が長年手がけて

通訳をつける取り組みをしてきました。なお、2020年4月 営課長となりますのでよろしくお願いします。 加し、中国の西安市、韓国の仁川広域市と相互に文化・芸術で 年度は豊島区が「東アジア文化都市」というプロジェクトに参 1日からは人事異動があり、としま区民センター・野外劇場運 の交流を行ってきましたが、このイベント開催時には必ず手話

者の方が実際に劇場に来られたときにどうやって案内するかを 階段がの幅が均等ではなかったりと、視覚障害者の方にとって 学び、実際に案内する人を育てるために実施しました。 は歩きづらい空間です。そのためこの講座を通して、視覚障害 ボランティア育成講座」も担当しました。劇場は、スロープや、 毎年3~4回ほどワークショップを行い、その成果として劇場 劇場側から外へ出向いていくこと)を行なっていたことでした。 塚ろう学校」でのアウトリーチ活動(出張ワークショップなど、 で発表会を行っていたのです。また、「視覚障害者の劇場内誘導 あうるすぽっとに着任する以前から、劇場が豊島区内にある「大 インクルーシブな活動に携わるきっかけとなったのは、 私が

は

葉に乗せている感情などを伝えるために、スライドでご覧いた う」ということになりました。ろう者の方と相談を進めるなか パニー・デラシネラ主宰)が3年ほどろう学校でのワークショッ 後の企画に結びついていきました。また、話が前後しますが、 だいているような、舞台の背景に吹き出しで字幕を映し出す方 という話になり、誰が話しているかを分かりやすく、そして言 で、「舞台の端に字幕を出すのは見づらいし、カッコ悪いよね その際、ろう者お客さんへの鑑賞支援のためにも「字幕を出そ プの講師を勤めてくださったのですが、その経験をもとに公演 南村さんに出会う前に、パフォーマーの小野寺修二さん(カン ちました。それがきっかけで連絡をとりあうようになり、その まったく違う手法・スピード感で行われていたことに興味を持 徒に指示をする様子がこれまでの障害のないアーティストとは 南村さんは手話でコミュニケーションするのですが、手話で生 さったろう者のダンサー南村千里さんに出会いました。当然 しました。ろう者の方2名が俳優と一緒に出演されています。 を作っていただき、2013年に『鑑賞者』という作品を制作 あるとき、ろう学校のワークショップで、講師を務めてくだ

> えるだけで簡単に海外公演ができた! というプラスの側面もあ ク公演を行なったのですが、この作成した字幕を英語に差し替 法や、文字としての演出を試みました。その2年後にニューヨー

## 劇場内のアクセシビリティを強化する

るのかを実際に体感しながら、理解を深めていきました。 者の方が来館されたとき、筆談をするとどれくらい時間がかか シミュレーション・ワークショップを行いました。実際にろう ぼって、ろう者の方にもご協力いただいて、実際に受付業務の くための改善案を提案していただきました。その次は人数をし よいですよ」という風に、段階を踏んでバリアを取り払ってい りますよ」とか「さらに手話通訳を入れていただければもっと で「メモ書きと鉛筆を用意してくれるだけで、実はなんとかな いう話をしてもらいました。例えば、ろう者の方の場合は受付 クチャーでは具体的に「劇場でこうしてもらえると助かる」と があることで楽しめないこと」について話をしていただき、 ということを実際に話していただく講座を考えました。それが 害があるから、こういうことしてもらえると劇場に行きやすい」 者の方に講師として劇場に来ていただき「私たちはこういう障 り返ってみると、私が意識を変えていくことになったきっか シビリティを強化していきたい」と考えるようなりました。 岸本:こうした経験をもとに、「もっともっと、劇場のアク 「おでかけ支援講座」です。セミナーでは当事者の方から「障害 「当事者の方と直接会話をしたこと」でした。そこで、当事

者の方にも許可をとった上で、当日は約30名の精神障害のある ろんそういった状況で観劇可能です」とお返事をしまして、 ということですよね?」とお問い合わせいただきました。「もち をしたのです。すると、豊島区内の精神障害のある方を支援す 率いる舞踏集団)と一緒に『はだかの王様』というファミリー る団体から「0歳児がOKならば、客席で多少声が出てもOK ミリー向けですから「0歳児から観劇可能」というような記載 向けの舞踏作品を制作しました。このときパンフレットで、ファ また別の事例ですが、2016年に大駱駝艦(麿赤兒さんが

> を強化する良いきっかけになったなあと思っています。 なく、楽しそうに見てくださいました。これもアクセシビリティ 方が観劇されました。実際は上演中にさほど声が上がることも

対するお互いの理解を深めていきました。 なんでだろう?」と思いますよね。そういうところから、 じが不思議で面白かったそうなのです。言われてみれば「あれ、 と、その瞬間にそこだけ゛ピックアップ゛して聞こえてくる感 音や音楽があふれているにも関わらず、自分の名前が聞こえる ポイントでした。音の聞こえない南村さんからしたら、 ということを互いに話しながら、作品に昇華していきました。 れど「それは具体的にどういうことなの? こういうことなの?」 があることは知っています。音が波であることも知っているけ スカッションしてきました。彼女はろう者ですが、もちろん音 海』)。南村さんとは長く「音って何だろう?」ということをディ 作るプロジェクトを進めていきました(2016年『ノイズの す)、ろう者のダンサー・振付家の南村千里さんと一緒に作品を ンドン・パラリンピックの後から始まったフェスティバルで フェスティバル「Unlimited」の視察に行ったり(ロ ハッとすることがありますよね、聞こえる人のこうした反応が 雑踏で人々が話しているときに、自分の名前が聞こえて思わず 作品づくりのポイントとなったエピソードは、よくカフェや そのすぐ後くらいに、イギリスで開催されている障害者演劇

的舞踊譜を作り、数字で構造化していって「この順番で踊って いました。こちらの上演写真では、演者が「光る棒」を持って いし、稽古時のキャスト間などでは指文字を含めた工夫をして がら進めていきました。正確な議論のためには手話通訳をお願 たら相手に伝わるだろう?」と考え、ジェスチャーも交えなが ますし、他のキャストも手話を学びながら、「お互いがどうやっ 作品では他に2名のろう者の方が参加されています。 いただいていますが、中央で話しているのが南村さんで、この ングには苦労したところがあります。稽古風景の映像を今ご覧 いく」という風に作り込んでいきます。そのため、キャスティ 方と作品を作るには、 南村さんの振り付け方法はかなり特殊で、楽譜のような視覚 ある種アドリブのような形でコミュニケーションをとりな 当然、稽古場には手話通訳が必要となり

と相談し、音に反応するデバイスを新開発したもの。視覚的に もわかりやすい公演を目指しました。 いますが、これはライゾマさん(ライゾマティクスリサーチ)

聞こえる人も楽しめるようにしました。 字幕も工夫しています。先ほどの事例と同じく舞台端ではな 舞台上に映し出すスタイルをとることで、 聞こえない人も

像がその時のものです。10名ほどろう者の方が参加されていま 耳の聞こえない方もそうでない方も一緒にワークショップがで ます。講師の方は英語で解説をされたので、日英通訳も入りま 分かると思いますが、ろう者の方はこれを見て動きを変えてい きるのではないかと考え、講師を招いて実施しました。この映 た「音なしエアロビクス」というワークショップです。その名 の例をひとつご紹介します。ドイツ人のアーティストと行っ したが、大きな混乱も無く比較的うまく開催できました。 ABalletin 3 Acts゚、この手法を取り入れれば、 ンスです。(Paula ROSOLEN "Aerobics! の通り、元は音楽を使わずに行うエアロビクス・パフォーマ 話は変わりますが、ろう者の方と行なったワークショップ 映像の一番前の手話通訳が手でカウントをとっているのが

り



## 『光の音:影の音』の制作体験から

キャストにもダンス以外の部分でストレスなく演じてもらった その時に理解したことを生かすことで、南村さんにも新しい 同じメンバーに入ってもらい、前回の上演で出た課題の改善や、 エーション)。スタッフについては、前回の『ノイズの海』と ら南村さんが選択して組み合わせていく形をとりました(クリ タイルではなく、三人にテーマを与えて踊ってもらい、そこか 付けといっても、南村さん自身が踊ってそれを真似てもらうス ダンサーです。彼らに南村さんが振り付けを行いました。振り 伊藤キムさん、捩子ぴじんさん、aokidさんの三人のプロ した。『光の音:影の音』という作品です。この時のキャストは、 岸本:南村千里さんとは2018年に、再び作品制作を行いま 新しい課題にも向き合いやすくする環境を整えました。

作品づくりの転換点だったように思います。 けない」と気づき、少し視点をシフトしていった、というのが 過ぎなくて、「聞こえない側の視点でも、表現を考えなくてはい う聞くのが正解だ」と思っていたものが、それは一つの視点に んでいきました。つまり、聞こえている側にとっては「音はこ けた話をしたのです。その後のクリエーションはスムーズに進 擦り合わない状態が続きました。そして、2週間ほど経った頃 教えるようなアプローチになりがちなのですが、南村さんにも 古を進める中でだんだんと理解、体感していったということで い」ということを頭では理解しているのですが、実際には、 「聞こえない視点からの意見」があり、当初はお互いに意見が このときに結構難しかったのは、ダンサーたちは「聞こえな 一度バーンと破裂(衝突)があり、その後でお互いがぶっちゃ 聞こえる側のダンサーがつい「音ってこうなんだよ」と

ろん、ダンス作品ですが、目の見えない方向けに音声ガイドを うメッセージを伝えたのです。これに加えて車椅子対応はもち ります」といった補助的なものでもなく、「当然のものとして作 音』の世界を織りなします」と謳いました。つまり「字幕もあ シでは「手話や字幕は舞台を彩るアイテムとなり、"きこえない 品内に組み込まれていて、ストレスなく鑑賞できますよ」とい この作品でもアクセシビリティの強化を試みています。チラ

> の音声ガイドを作ってみたわけです。 ているときのシーンです。とにかくまぁ、なかなか大変な試み が大変でした。それからこの映像は、公演中ライブで字幕を打っ の記号の指示に基づいて三人が動いているときの音声ガイド。 イドが変わってこちらの原稿は、先ほど少し触れた、南村さん きをしているときの、音声ガイドの解説の仕方」ですね。スラ が音声ガイドの原稿です。難しかったのが「3人がいろんな動 「7番のときに~」と書いていますが、これもなかなか解説方法 入れる試みも行いました。今スライドでご覧いただいているの

ないので、チャレンジしたところではありました。 てみないと課題点もわからないし、音声ガイド自体も進化でき やはりまだまだ難しいなあと思いました。とはいえ、実際にやっ れまして(笑)。当然、 害者の方に感想を聞いたら「うん、わからなかった!」と言わ そして公演が終わった後に、音声ガイドを利用された視覚障 全部は伝わらないとは思ったのですが、

乗ってパフォーマンスをする公演の準備も現在進めています。 つ『The GARDEN』という、障害者の方が長い棒の上に めないので、様子を見ながら進めているところです。 の企画を進めているのですが、新型コロナウイルスの状況が読 ト)という、日・英・バングラデシュの障害者による新作公演 2020年の取り組みとしては『TEMPEST』(テンペス

#### 自分自身の意識について

岸本:最後に、自分自身がなぜインクルーシブな取り組みを 関する法律」によって、機運が高まっていることも当然ありま 2018年に制定された「障害者による文化芸術活動の推進に の責務、劇場の評価向上、助成金対応などの視点もありますし、 行っているかについて。対外的要因としては、公共劇場として

反応や刺激を受けたり、一緒に作っている相手の側も刺激を受 異なる文化的背景を持つ方と一緒に制作すると、自身が意外な を受ける」ことが大きいと思っていま す。これは障害のある方 との作品制作だけではなく、 私自身は、 作品の制作を通して「思いもよらない新しい刺激 国際共同制作でも同じなのですが、

ます。 障害のある方との作品づくりも、私の中では一緒だと思っていけて、結果としてまったく新しい作品ができることがあります。

今日の話のまとめです。一般的に「すべての人が同じ体験、サービスを受けられるようにしましょう」といわれています。もしかしたら芸術では少し違うかもしれない、と感じていますで、楽しみ方が見つけてくれればいいのではないだろうか? とっの楽しみ方がある。果たしてそれを、聞こえている、見えて方、楽しみ方がある。果たしてそれを、聞こえている、見えている側から「これが正解だ」という風に価値を押し付けてもいいのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、鑑賞の機会を等しく保いのだろうか? もちろん前提として、

#### 質疑応答

奥山:ありがとうございます。作品制作での衝突や、それをブレイクスルーする瞬間について、きめ細やかなプロセスを丁寧レイクスルーする瞬間について、きめ細やかなプロセスを丁寧という視点は、今回のテーマにとってはとても重要ですね。び体験を受け取ることが、必ずしも正解ではないかもしれないという視点は、今回のテーマにとっていてお話してみたいと思いて、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いひ、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いな、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いな、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いな、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いな、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いな、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いな、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いています。作品制作での衝突や、それをブレイクスルーする瞬間についてお話してみたいと思いな、他のゲストの方ともこの点についてお話してみたいと思いない。

たことを、明るく話せる岸本さんのポジティブなマインドがいたのに、当事者の方に〝うん、分から なかった!〟」と言われ長津:発表ありがとうございました。「音声ガイドをつくってみ

いなあと思いますね(笑)。

続いて、三人目のゲスト柿塚拓真さんに発表をお願いしたい続いて、三人目のゲスト柿塚拓真さんに発表をお願いしたいます。私も足を運んだことがありますが、をたくさんされています。私も足を運んだことがありますが、をたくさんされています。私も足を運んだことがありますが、をたくさんされています。私も足を運んだことがありますが、をたくさんされています。私も足を運んだことがありますが、と思います。柿塚さんは、大阪の日本センチュリー交響楽団で、と思います。柿塚さんは、大阪の日本センチュリー交響楽団で、と思います。

#### 発表③ 柿塚拓真さん

(日本センチュリー交響楽団 コミュニティプログラム担当マネージャー)

#### オーケストラは誰のもの?

#### ―ひらかれた存在を目指して

柿塚:大阪府豊中市に拠点を置く「日本センチュリー交響楽団」だろうか? ―このように自問し始めたのがすべての始まりでした、社会的役割を考える時、果たしてそれだけで本当にいいの命、社会的役割を考える時、果たしてそれだけで本当にいいの命、社会的役割を考える時、果たしてそれだけで本当にいいの命、社会的役割を考える時、果たしてそれだけで本当にいいのかがない? ―このように自問し始めたのがすべての始まりでしたろうか? ―このように自問し始めたのがすべての始まりでした。

はどうしたらいいのか? …あれこれと考え続けるうちに私たちうか? そういう人もオーケストラのお客さんになってもらうにで、果たして十分なのだろうか? 自らホールに足を運ばない人で、果たして十分なのだろうか? 自らホールに足を運ばない人の 人、そこに向かって自分たちの芸術活動を届けるだけコンサートホールが満席になってもせいぜい1000人、コンサートホールが満席になってもせいぜい1000人、

き出したプロジェクトでした。

程度「参加者(対象者)」を限定し、その方たち向けのプログラ でも気軽に参加できる「即興的な演奏」が多いという側面はあ しい音楽を作り出す企画もたくさんあります。もちろん、楽譜 らうだけの企画もありますが、その一方で、参加者と一緒に新 を持って進めています。中には、結果として、演奏を聞いても まったく新しい音楽を創造できるのではないか?」という視点 分たちが得られるものがあるのではないか?」「参加者と共に、 値の押し付けではありません。音楽家自身も「参加者から、 楽の素晴らしさを理解してもらいましょう」という一方的な価 います。それも単に「演奏を聞いてもらいましょう」「オケや音 ムを作り上げ、その対象者にこちらから会いに行って実施して てしまいますが、このプログラムでは、オーケストラ側である しなければ、その参加者はただのオーケストラファンに留まっ るたくさんの音楽家と参加者の「交流」においています。何も が読めない方、楽器演奏が上手ではない方も対象ですので、 このプログラムでは、ポイントをオーケストラに所属してい

発見・変化があるものなのだ)」と思える企画であることが大切にます。この点も「これを理解してください」「きちんとお行儀います。この点も「これを理解してください」「きちんとお行儀な看しい発見があると同時に、一緒に活動している音楽家、場る新しい発見があると同時に、一緒に活動している音楽家、場を提供する劇場自身にとっても「この取り組みは、自分のためでもあるのだ(自分にも関係があるものなのだ、自的でもありますが「参えり、このプログラムの結果であり、目的でもありますが「参えり、このプログラムの結果であり、目的でもありますが「参えり、このプログラムの結果であり、目的でもありますが「参

だと思っています。とは言いながら、通常のオーケストラは普だと思っています。とは言いながら、通常のオーケストラは普で存在として、京都在住の作曲家・ピアニストの野村誠さんをで存在として、京都在住の作曲家・ピアニストの野村誠さんをで存在として、京都在住の作曲家・ピアニストの野村誠さんをでなたとして、京都在住の作曲家・ピアニストの野村誠さんをですない。とは言いながら、通常のオーケストラは普でと思っています。とは言いながら、通常のオーケストラは普でと思っています。とは言いながら、通常のオーケストラは普でと思っています。

## コミュニティプログラムの事例紹介

は家:今日はまずはじめに言いたいのが、誰もが「いろんな人 に来てほしい」と思うものですが、「いろんな人」というのは に来てほしい」と思うものですが、「いろんな人」というのは 個性や特性がある人たちがいて、それぞれにアプローチをして いくことが結果として「多様な人にアプローチする」ことにな いくことが結果として「多様な人にアプローチする」ことにな いくことが結果として「多様な人にアプローチする」ことにな のだと思います。

ですので、日本センチュリー交響楽団では、対象者ごとに異なるコミュニティプログラムを実施してきました。その実例をなるコミュニティプログラムを実施してきました。その実例を若者の就労支援の一環で行なっており、就労支援センターに登碁者の就労支援の一環で行なっており、就労支援センターに登録されている若者が対象です。オーケストラと一緒に行う「音楽づくり」を通じて、自身の生き方や働き方を深めてもらうプルグラムです。

2つ目は「家族でオーケストラ」。約1日かけて親子や家族が、2つ目は「家族ですいい。その場で楽器の貸し出しもしています、海がで演奏できる音楽を持参してください、その場で一緒に音楽を作りましょう!」と声をかけています。今ご覧いただいている写真は、たまたま子どもたちがバイオリンを持っていますが、る写真は、たまたま子どもたちがバイオリンを持っていますが、る写真は、たまたま子どもたちがバイオリンを持っていますが、る写真は、たまたま子どもたちがバイオリンを持っています。

3つ目は「お茶の間オーケストラ」。例えば認知症で施設に入るつ目は「お茶の間オーケストラ」。例えば認知症で施設に正頼れないので、新しい作品を3ヶ月以上かけて作ることはでに頼れないので、新しい作品を3ヶ月以上かけて作ることはでに頼れないので、新しい作品を3ヶ月以上かけて作ることはでに頼れないので、新しい作品を3ヶ月以上かけででるとはでに頼れないので、新しい作品を3ヶ月以上かけで作ることはでで楽しんでもらうことができるのです。



柿塚拓真氏

のです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センのです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センので、楽器演奏の経験を問わず、公募で募集した参加者によっ心になりましたが…)。この音楽祭は豊中市が主催しているも配りしています(残念ながら新型コロナウイルスの影響で、中配りしています(残念ながら新型コロナウイルスの影響で、中配りしています(残念ながら新型コロナウイルスの影響で、中配りしています。日本センのです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センのです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センのです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センのです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センのです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センのです。毎年大体30~40名ほどが参加されています。日本センのです。

チュリー交響楽団からは音楽家(人材)とオケ用の楽器を提供し、地域の教育機関として協力してくださっている大阪音楽大学さんからは、オケが所有していない民族楽器や日本の伝統楽器(琴、三味線、尺八、琵琶など)を貸し出していただいており、 おったは、り歳のお子さんを持つお母さんもいれば、「昔は、なかなかの楽器の腕前だったのよ」というお年寄りもいれば、障害のある方も。また、「学校には行きにくいけれど、社会と関われる場所を探している」という親御さんが子どもさんを連れて来られることもあります。

民参加のオーケストラによる発表を行っています。 地域の団体の発表で(元の演芸祭を引き継いだもの)、後半は市 り上げることを目指しています。音楽祭の前半は地元の小学校、 新しいオーケストラを作ろう」をテーマに、参加者の年齢、 発展させ、新しい音楽祭を作ることになったのです。「21世紀の 果、もともとREKさんが主催していた地域の演芸祭を吸収 お互いの強みや、協力し合うことで何ができるかを相談した結 していただきました。しょうないREKさんと私たちの間で、 て「しょうないREK」さんという民間団体を、豊中市に紹介 リアです。実施にあたり、オーケストラと地域のつなぎ役とし らの労働者やその家族の孤立など、多くの課題を抱えているエ 地域は統計上でも、学力やひとり親の問題、収入格差、外国 性化をしていきましょう」とお返事をいただいたのです。南部 内エリア)に課題を抱えている。ぜひ一緒に、音楽を通した活 始まりでした。すると市の方から「豊中市は今、南部地域(庄 豊中市の方へ「市民と一緒に音楽をやりたい」と相談したのが そもそも、 楽器の種類にはとらわれず、まったく新しい音楽を作 なぜこの企画が実現したかと言うと、私たちから

加されている方もいらっしゃいますが、毎年、担当する楽器をかれています。2015年から始まって今年で6年目、毎年参られています。そのほかの楽器が一人ずつ大阪音大の先生が入口人が参加し、そのほかの楽器に一人ずつ大阪音大の先生が入口人が参加し、そのほかの楽器に一人ずつ大阪音大の先生が入り、一人が参加し、そのほかの楽器に一人ずつ大阪音大の先楽器シターしょう。西洋の楽器から民族楽器、例えばインドの弦楽器シターしょう。西洋の楽器から民族楽器、例えばインドの弦楽器シター

立のように、プロの音楽家と市民が一緒に取り組むプロジェスのように、プロの音楽家と市民が一緒に取り組むプロジェクトといっても、市民がただ参加して演奏するだけではなくて、アウトブットはさまざまです。先ほどお話しした「Theて、アウトブットはさまざまです。先ほどお話しした「Theて、アウトブットはさまざまです。先ほどお話しした「Theて、アウトブットはさまざまです。先ほどお話しした「Theて、アウトブットはさまざまです。先ほどお話しした「Theで、アロの音楽家と市民が一緒に取り組むプロジェ

## コミュニティプログラムの価値観

ている価値観をまとめてみました。が、コミュニテイプログラムの企画・運営で私たちが大切にしが、コミュニテイプログラムの企画・運営で私たちが大切にし

#### 〈私たちの姿勢・価値観〉

④人々にとって、芸術が「生きたものに」になるように。②他の分野と連携していく。課題や成果を共有し合う。①自分たちの存在意義を再定義する。

社会における自らの存在を再定義することから再スタートしま度存在を否定されているのです。そうした状況の中、私たちはなたたちの面倒はみない」といわれたわけです。ある意味、一なたたちの面倒はみない」といわれたわけです。ある意味、一個設したオーケストラ。その後、2011年に民営化され、現創設したオーケストラ。その後、2011年に民営化され、現

勢で、交流し続けてきました。

もちろん、新しい交流を行うためには、地域のNPOや福祉もちろん、新しい交流を行うためには、地域のNPOや福祉によってどんな成果が得られるか(または、得られたか)を共によってどんな成果が得られるか(または、得られたか)を共によってどんな成果が得られるか(または、得られたか)を共によってどんな成果が得られるか(または、得られたか)を共によってどんな成果が得られるか(または、得られたか)を共によってどんな成果が得られるか(または、得られたか)を共によってどんな成果が得られるか(または、得られたか)を共によってどんな成果が得られるか(または、地域のNPOや福祉によってどんな成果が得られるか(または、地域のNPOや福祉によってどんな成果が得られるか。

をあげておきたいと思います。ピックとして、自分たちが実施・運営において感じてきた課題最後にもうひとつ、この後のディスカッションのためのト

## 〈「みんなの客席」を実現する上での課題

①音楽家の育成

②トライアンドエラーを、いかにプロジェクトに組み込んでい

③事業評価、効果測定をどう考えるか?

④芸術としてのクオリティをいかに担保するか?

音楽家一人ひとりが意識を持って活動に取り組めるよう、プなってしまう。オーケストラには5人の音楽家がいますので、が、もしも彼一人だけががんばったら「彼のプロジェクト」にが、もしも彼一人だけががんばったら「彼のプロジェクト」にり、現在は音楽家の野村誠さんにサポートいただいていますり、現在は音楽家の野村誠さんにサポートいただいていますり、現在は音楽家の育成は、非常に大きな課題です。先ほどお話しした通楽家の育成は、非常に大きな課題です。

ログラムをリードできる人材育成にはかなり投資をしています。例えば、こうした活動の先駆者である(と私が思っていま。例えば、こうした活動の先駆者である(と私が思っていま。例えば、こうした活動の行なっています。また、これはたまたま昨日入稿したばかりなのですが、自分たちの経験をもとに制作した音楽ワークショップの手引書『音楽の根っこ オーケストラと考えたワークショップの手引書『音楽の根っこ オーケストラと考えたワークショップの手引書『音楽の根っこ オーケストラと考えたワークショップの手引書『音楽の根っこ オーケストラと考えたワークショップの手引書『音楽の根っこ オーケストラと考えたりした。ないます。またはこれから始めようとする仲間の背中を押したしている、またはこれから始めようとする仲間の背中を押したいと考え、制作・公開を行いました。

また、こうしたインクルーシブな活動は、誰もやったことがまた、こうしたインクルーシブな活動は、誰もやったことがまれいので失敗も多いもの。ですが、「その失敗も含めてプロジェクトである」と私は考えています。プロジェクトで起こりうる失敗を組織として許容できるかどうか? この点が、多様な人が紡ぎ出す音楽を芸術にしながら、企画の質を上げていくプロセスを、組織として許容しながら、企画の質を上げていくがあるが、「その失敗も含めてプロジェないので失敗も多いもので失敗を表れています。

それから、初めて行う活動は世間の価値が定まっていないのそれから、初めて行う活動は世間の価値が定まっていないの「オーケストラやクラシック音楽の評価基準には、絶対的なもの「オーケストラやクラシック音楽の評価基準には、絶対的なものがある」と無意識のうちに思い込んでいると、もしも自分の掲りでとても面白い音楽、魅力的な音楽が生まれていても、それりでとても面白い音楽、魅力的な音楽が生まれていても、それの一つから、世間の価値観に合わせることなく、自分たちの視点ですから、世間の価値観に合わせることなく、自分たちの視点ですから、世間の価値観に合わせることなく、自分たちの視点ですから、世間の価値観に合わせることなく、自分たちの視点ですから、世間の価値観に合わせることなく、自分たちの視点ですから、世間の価値観に合わせることなく、自分たちの活動を評価していくことが非常に大切です。つまり、自分たちで「何をゴールとするか」を決める必要があるということでもあります。原点に立ち返って、評価を自分たちで一から構築していかない限りは、多様な客席へのアプローチは難しいのではないかと思います。そろそろ時間ですね、本日は難しいのではないかと思います。そろそろ時間ですね、本日は難しいのではないかと思います。そろそろ時間ですね、本日はごかないました。

#### [質疑応答]

のディスカッションの際に、その他の質問をしたいと思います。や化した実践例をお聞きできたことは大変貴重でした。最後に特化した実践例をお聞きできたことは大変貴重でした。最後に特エラー ③事業評価 ④クオリティの担保)は非常に重要ですな。ここでは私からはコメントとのみとさせていただき、後半ね。ここでは私からはコメントとのみとさせていただき、後半ね。ここでは私からはコメントとのみとさせていただき、後半回、第2回の勉強会を通奥山:ありがとうございました。第1回、第2回の勉強会を通

ました。 作品を考えることにもつながるのだなあと、あらためて実感し作品を考えることにもつながるのだなあと、あらためて実感し開勉強会ですが、客席を考えることは、当然ながら新しい舞台・長津:今日は「"みんな" の客席って?」というテーマでの公

## 【第2部 みんなでロームシアター京都の

## 「クオリティの多様性を広げる」ために

場の多様性」の話にもつながると思います。とは、今日の会場であるパブリックスペースも含めた「劇さらには、今日の会場であるパブリックスペースも含めた「劇さらには、今日の会場であるパブリックスペースも含めた「劇の多様性」の話ではあり、ご長津:本日の後半は、会場のみなさんの質問も受けながら、ご長津:本日の後半は、会場のみなさんの質問も受けながら、ご長津:本日の後半は、会場のみなさんの質問も受けながら、ご

オリティを維持しているこの劇場でやるべき必要があることなおりティを維持しているこの劇場でやるべき必要があることからはじお三方のご意見をお聞きしながら、議論を深めることからはじお、それも世界的に著名な作品も公演している劇場で、こうし場、それも世界的に著名な作品も公演している劇場で、こうし場、それも世界的に著名な作品も公演している劇場で、こうし後半の議論は、3番目に発表してくださった柿塚さんが最後後半の議論は、3番目に発表してくださった柿塚さんが最後

らっしゃいますか? 三方の現場では、クオリティや評価の問題をどう受け止めてい三方の現場では、クオリティや評価の問題をどう受け止めてい国の公立・民間の劇場が抱えている悩みだとも思いますが。お能性もあります。もちろん、ロームシアター京都に限らず、全のか?(他の劇場ではダメなのか?)」という意見が出てくる可

文:クオリティについては、2007~88年に「循環プロジェクト(障害のあるアーティストとそうでないアーティストの境クト(障害のあるアーティストとそうでないアーティストの境かた時から、徹底してこだわってきました。つまり、どんな作品でも私たちはクオリティの追求をあきらめていません。それゆえに、障害のあるパフォーマーにとっても「障害があるから仕方ない」というような考え方を許さない、ある意味厳しい見場だったと思います。また、少なくとも、舞台に関わる限り現場だったと思います。また、少なくとも、舞台に関わる限りは、「責任をもってやり遂げる」ことが最低限の質を担保することだとも感じています。現在は、地域の住民の方と一緒に舞台とだとも感じています。現在は、地域の住民の方と一緒に舞台とだとも感じています。現在は、地域の住民の方と一緒に舞台とだとも感じています。現在は、地域の住民の方と一緒に舞台を制作することも多いですが、お客さんの前で発表する以上は、東着者が誰であれ、同じ考えのもとで進めています。



く維持し、高いクオリティを追求できるのでしょうか?の意識は大きく違いますよね。どんなコミュニケーションをの意識は大きく違いますよね。どんなコミュニケーションをの意識は大きく違いますよね。どんなコミュニケーションをは大きく違いますよね。どんなコミュニケーションをのでしょうか?日頃奥山:プロとアマチュアのクリエーションに対する責任、意識

ました。ニケーションが密であるがゆえに大変な思いをしたこともありいます。そのための時間は惜しまないですね。ただし、コミュ文:とにかく、徹底してコミュニケーションをとるようにして

わって作っている。障害者の方にも稽古場ではプロとして接 ない可能性がありますからね 障害があることがネックになり、簡単に新しい仕事が見つから ない。そうなると舞台が終わった後の再就職の問題が出てくる。 と本番の期間だけ給与のような形で金銭面の保障を行っていま 作ってもらうことが非常に難しいのです。もちろん、舞台稽古 事を持っていらっしゃる。そうなると平日の昼間に稽古時間を 台稽古は、昼頃から稽古をして夕方に終わるのが理想的。 す。これは、 じているのが、障害者の方の稽古時間の確保と補償の難しさで が障害のある方と一緒に作品づくりをするときに一番問題に感 する分、厳しくあたっているところもあるかもしれません。 と考えて進めてきました。つまり、 んな舞台も、プロフェッショナルとしての公演であるべきだ\_ 岸本:私たちも、小学校の発表会のようなお披露目は除き、 障害のある方でパフォーマンスされている方は、本業の仕 そのためには一旦、仕事を辞めていただかなくてはなら 小劇場の役者も同じだと思いますが…。 通常の舞 徹底してクオリティにこだ

はなく、インクルーシブな舞台を行なう価値や意義を何かしら価の際に、費用対効果のようなものが問われかねない。そうで台制作では、どうしてもプラスαのお金はかかりますから、評された。と言われることが少なくない。インクルーシブな舞だよね…」と言われることが少なくない。インクルーシブな舞評価軸も、難しい問題ですね。私自身も、組織の上の上の方評価軸も、難しい問題ですね。私自身も、組織の上の上の方

なと考えています。のデータとして積み重ねて、根気強く伝えていくしかないのか

すか? 長津:お金がかかるとは、具体的にどのような内容に対してで

した現実もふまえて、進めていく必要があると思います。といた現実もふまえて、進めていく必要があると思います。こうさん、音声ガイドの手配料金がかかりますし、視覚障害者の方さん、音声ガイドの手配料金がかかりますし、視覚障害者の方とすると、今度は育成するための費用がかかります。といいて必要があると思います。

これを組織内でどう説得していくかもキーになりそうですね。アクセシビリティを高めることは、端的に言えばお金がかかる。信するだけでも会場費など、いろいろお金がかかりますから。配いるから無観客ではないとは思うのだけれど、さておき)、配いるから無観客ではないとは思うのだけれど、さておき)、配いるから無観客で、舞台やライブの無長津:最近は新型コロナウイルスの影響で、舞台やライブの無

み重ねていくことがつくづく大切だと感じています。を「必要なものなのだ」と言い切る説得材料を、コツコツと積経営側から見ると余分に感じられてしまうのでしょうね。それ岸本:私たちにとっては余分(無駄)に感じられないけれど、

て、可能性に感じていることをお聞きできれば幸いです。

クオリティかもしれない。 だし、0歳から9歳の市民が同じステージに立っていることも ません。…とにかく音楽の場合は、楽器の演奏技術だけではな 舞台や経験が人の心を動かすのか?」について語れるかもしれ ませんが。もしかしたら、きちんと分析していけば、「なぜその の上に成り立っているもので「絶対的なコレ」というものはな 障害者の方を招いた時の発表会は入場料をいただいて実施しま 撮影する程度のアウトプットになっています。唯一、香港から 自分たちでセッションを楽しむ程度だったり、 れています。そのため、ほとんどのケースでは発表会は行わず、 柿塚:先ほどご紹介した私たちのプロジェクトでは、若者や認 いう人が、プロと一緒に演奏していることも新しいクオリティ では、自分が音楽を演奏できるなんて夢にも思わなかった」と いところに心が動くポイントがたくさんあるわけです。「これま いと思うんですね。たまたま自分の分野が音楽だからかもしれ したが。何が言いたいかというと、クオリティはコンテクスト 音楽ファンの方など、基本的にアマチュアの方が参加さ せいぜい映像を

それにも関わらず、現状は私たち自身のクオリティの定義が それにも関わらず、現状は私たち自身のクオリティの定はないか と思うのです。これは鶏か卵か、どちらが先かの問題にもつながります。こうした先駆的な活動が広がらないと、クオリティがります。こうした先駆的な活動が広がらないと、クオリティがらないと、こうした活動が社会に広がっていきませんから。のだけはなく、すべての舞台芸術においてなされるべきだと感がらないと、文化庁的にいう「社会包摂的な事業」におけるものだけはなく、すべての舞台芸術においてなされるべきだと感がらないと、こうした活動が社会に広がっていきませんから。のだけはなく、すべての舞台芸術においてなされるべきだと感がらないと、文化庁的にいう「社会包摂的な事業」におけるもたります。いわば「クオリティの多様性を広げる」こうした思いは、実際に自分たちが活動を続けてきた現場で「なんてた思いは、実際に自分たちが活動を続けてきたからこそ、素晴らしい音楽を作っているんだ!」と体感してきたからこそ、素晴らしい音楽を作っているんだ!」と体感してきたからこそ、言えることでもあります。

ライテリア)の話ですね。私は普段九州大学でこうしたインク長津:柿塚さんの提言は、クオリティの多様性、評価基準(ク

ルーシブな活動について研究しているのですが、昨年『はじめての"社会包摂×文化芸術』ハンドブック』を出版し、今年のての"社会包摂×文化芸術』ハンドブック』を出版する予定です(大学から宣伝するように言われており、すみません! 2冊ともPDF版をインターネットでダウンロードいただけますのでよろしければご参考にしてください。由ttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuhttp://www-sal-design-kyushuttp://www-sa

リー交響楽団の場合は、前例もお金も人材も少ない中でやって も、現在はそうした流れになっていますよね。特に日本センチュ と思うのです。これは芸術に限らず、あらゆる社会政策の中で ムメイド)というか、自分たち自身でデザインしていくものだ な、数値の判断がすべてではない。もっとビスポーク(カスタ りプロジェクトが始める以前から、評価が始まっていると思う クホルダー全員が関わっているべきだ」という考えです。つま なくとも自分が勉強している範囲では、この議論については答 間があったので、専門家を入れた評価を行ってはいますが。 はありません。たまたま、高齢者とのプロジェクトは予算と時 ていくしかないのだと思っています。 たい」と思っているなら、そのために今は予算や時間を費やし いかなければならない。でも本当に組織が「新しい価値を広め である」ということ。それから「評価基準の設定には、ステー たはプロジェクトのゴールやミッションによって作られるべき えがでています。それは「評価基準とは、自分たちの組織、 柿塚:私たちも、現在のすべての事業を評価できているわけで 評価は「走り幅跳びで3m飛べました」というよう

ね! 指標を作り、自分たちで評価しましょう、という考えなのです 岸本:組織のミッションやビジョンを鑑みた上で、自分たちで

りますが、少なくとも今この場で話すと収集がつかなくなるの のだろうか?」という問題です。いろいろ議論したいことはあ たちが下した評価を、「正当に評価してくれる人は果たしている と思います。しかし、そうなると次の問題が出てきます。自分 柿塚:はい。おそらくこの考え方は他の国でも一緒ではないか で控えさせていただきます(笑)。

が

だ! みたいなエピソードもそうですよね。文さんにお聞きした 換だなあと思って。劇場だけど、カラオケ大会もやっちゃうん 新していく必要があると思いました。それで思ったのですが、 自分たちの常識を変えることが大切で、そのために評価軸を更 文さんが地域で実践されてきたことって、まさにこの視点の転 あと思いました。「あげましょう」という態度でいる時点でダメ。 しょう」という上目線の態度でいてはつくづくいけないのだな てお客さんを巻き込もうとするときに、「客席をひらいてあげま に評価の話になるということは、「みんなの客席ですよ」といっ リティの担保についてはどのようにお考えですか? いのですが、ここまで多様に劇場をひらいていった場合、 長津:今日は「〝みんな〟の客席」がテーマですが、このよう クオ

中に、障害のある人もいれば、障害があってかつプロフェッショ ります。つまり、彼らが日常的に劇場で作品のクリエーション 劇場の役割のひとつに、若いアーティトたちの支援・育成があ 考えています。 ナルを目指している人が混じっていることもある、こんな風に に取り組んでいる、という筋がひとつあるわけです。その筋の 文:まず、インクルーシブな活動への意識について。私たちの

BOXにとっては、町の人に受け入れてもらえて「この作品、 ええやん!」といってもらえることが、何よりも大きな評価だ ついてですが、ダンス業界ももちろんですが、今のDANCE と思っています。 「誰に認めてもらえたら、評価されたことになるのか?」に

長津:先ほどのアートマフィアのメンバーのラインナップを見 メンバーの間に共通認識はなさそうですものね。普段の 彼らが一緒に出会うこともなさそうです… (笑)。 だ

> 新しい価値なのだなあと思いました。 と」というキーワードをあげてくださいましたが、この方たち らしいことのような気がしますね! 今日は、文さんが「自分ご からこそ、この人たちすべてに認められることは、とても素晴 「自分ごと」として、劇場や作品をとらえていくこと自体が、

次の上演回にブワッとお客さんが押し寄せることがあります。 あるんですよ。そうなると、あっという間に町で話題になって、 と反応してくれたときは、めちゃくちゃうれしいですね。時々 しいですね、反対に。だからこの方たちが「これよかったわ~」 ではないか」を見分ける嗅覚はすごいんです。そこはとても厳 文:この方たちは専門知識はないですが、「ほんまもんか、そう

## 更新されていく客席をどうとらえるか?

化があると思うのですが、岸本さん、柿塚さんはどう受け止め でしょうか? 当事者のご家族や関係者にとどまらない客層の変 の点に対しての皆さんの感想や、実感をお聞かせいただけます 多様な客層へと更新(変化)していっていると思いますが、 いのですが、みなさんが活動を続けることで、客席がどんどん 奥山:それは興味深い反応ですね! それでは続けてお聞きした ていらっしゃいますか?

くて) 長津:オーケストラの場合は、「多様すぎる客席だと、(うるさ 困ります」という反応が出ないとは限りませんものね。

えてきましたね。そうなってくると、「あうるすぽっとは、 当なのですが、伝統系の公演でも音声ガイドをつけることが増 り、担当が1人増えました。そのスタッフは伝統芸能などの担 「これっていいことなんだ!」と周りに伝わっていくようにな のスタッフくらいしかがんばっていませんでしたが、だんだん 援に対応する公演が増えていった感じですね。最初は私と数人 からといって、何か制作手法を変えたわけではなく、鑑賞者支 者の方が増えてきた印象です。とはいえ、当事者の方が増えた は多くなかったですね。積み重ねていくうちに、少しずつ当事 岸本: [あうるすぽっと] では、取り組み始めた頃は客層の幅

> いる実感があります ますね。それによって、新たなお客さんが徐々にですが増えて な取り組みをしている劇場だ」という認識が世間で増えていき

象です。ですが、発表でお話したように、私たちは「椅子に座っ もってきてくれることも。就労者支援プロジェクトの「The を出している(新しい可能性を探っている)とも言えるわけで オーケストラが、楽団経営だけではない新ビジネスに貪欲に手 のビジネスモデルの拡大ともいえますが、違う見方をすれば、 ちのオーケストラが任命されています。これは、オーケストラ 市の市民ホールの指定管理者のひとつに(日本で初めて)私た なっています。また、そうした活動の成果として、現在、豊中 ているわけです。その視点が、コミュニティプログラムの軸に ん であり劇場にとっての「総合芸術オーガナイザー」だと考え ている人」だけをお客さんだと考えずに、町の人全体がお客さ 内容は変わらないけれど、少しずつ新しい客層が増えている印 体がプログラムに組み込まれています。そんな風に定期公演の Work」は、センチュリーの定期演奏会を聴きにいくこと自 に参加したお客さんが、 柿塚:小さなエピソードとしては『世界のしょうない音楽祭』 定期公演に来てくれて楽団員にお花を

換ができましたね! 長津:多様な客席、というテーマでいろんな意見、 アイデア交

それでは、ここまで発表や議論を聞いてくださった客席から ぜひ質問や感想を受けたいと思います

## アーティストの人材育成をどう考えるか?

催団体とアーティストが連携してプロジェクトを行っていくこ あると思いますが、特にアーティスト育成の今後が気になりま 担う人材育成にはスタッフとアーティスト、それぞれの育成が うトピックが興味深いと思いました。インクルーシブな活動を きた方ですが、野村さんの次世代の人材を考えたときには、 した。音楽家の野村誠さんは、彼ご自身が先駆的に活動されて 会場からの質問:いろいろお話を伺った中でも、人材育成とい

りはどのように生まれ、作品へと進化していくのでしょうか?わっているそうですが、アーティストと地域の人たちのつながさんではレジデントアーティストが、地元での作品企画にも関文さんにひとつお聞きしたいのですが、DANCE BOX

とが、人材育成につながるのではないかと感じました。

自然と人材育成につながっている気がしています。きちんとし 活の中からリサーチが始まっているのです。また、私たちの障 的に「生活と芸術活動の切り離せなさ」が起こっているわけで 講習を受けたり、制作活動に取り組んでもらっています。必然 中プログラムで、参加者には新長田に引っ越しもらった上で、 というプログラムを6年間続けてきました。これは8ヶ月の集 DANCE BOXでは、コンテンポラリーダンスに関する振り ちはDANCE BOXの近くにいることで、人材育成に無理や た答えになっていないかもしれませんが、若いアーティストた 活動でも、若いアーティストにサポートを依頼しているので、 入ってもらうことも多いですし、子どもたちへのアウトリーチ 害者との取り組みでいえば、レジデントの方にアシスタントに すね。だから、参加者が作品を作るときにも、自然と地域の生 付け、ダンサー、制作を志す人に向けた「国内ダンス留学@神戸」 文:今日は時間がなくて詳しくご紹介できませんでしたが、 り巻き込まれている(笑)という、環境がある気がしています。

きっと多いと思うのです。 きっと多いと思うのです。 管害者と一緒にプロジェクトを 長津:おっしゃる通りですね。 障害者について知る必 要がありますから、「とにかく一緒にいることから始めよう」という視点はとてもいいと思います。柿本さんの同行研修も同じですね。 障害者に限いと思います。柿本さんの同行研修も同じですね。 障害者に限いと思います。 神本さんの同行研修も同じですね。 障害者に限いる可以と思うのです。

機会を提供する場であってほしいと思います。こうした鑑賞支と思います。公共劇場は、できるだけ多様な人に芸術にふれる私は舞台手話通訳、音声ガイドを手がける人材の育成も必要だ岸本:ワークショップのファシリテーターはもちろんですが、

で演出家が学べる機会を設けたいと考えているのです。 で演出家が学べる機会を設けたいと考えているのです。 たほど、新作『テストを適正な金額で雇用することも同様です。先ほど、新作『テストを適正な金額で雇用することも同様です。先ほど、新作『テストを適正な金額で雇用することもそうですし、障害のあるアーティ援サービスを導入することもそうですし、障害のあるアーティ

ね。 演出として制作に関わる機会を保障していくことも大切ですよ 長津:障害のある人が客席だけではなく、実際に舞台に出たり、

す。をもらって新しいチャレンジをする方もいらっしゃると思いまをもらって新しいチャレンジをする方もいらっしゃると思いま岸本:舞台に出て活躍する障害者を見て、そこから刺激や勇気

考えでしょうか? 後どう育てていくことができるのだろうか。柿塚さんはどうお後どう育てていくことができるのだろうか。柿塚さん人材を、今私もインクルーシブな活動の研究者として、「ポスト野村誠さん長津:会場からの質問をきっかけに、議論が広がりましたね!

聘し、楽団員がトレーニングを受ける。その上でカメラータのフローとしては、①プロジェクトが始まる9月に一度彼らを招フローとしては、①プロジェクトが始まる9月に一度彼らを招ののプログラムとして実施しています。指導にあたってくださっのプログラムとして実施しています。指導にあたってくださったのは、高齢者や認知症の方を対象にしたプログラムで定評のあるイギリスの室内管弦楽団(マンチェスター・カメラータ)。その実践の場としたのが、高齢者向けの音楽プログラム。1

方と一緒に高齢者施設に行き、音楽ワークショップを実施する。
②その後の3ヶ月は、毎週、日本人メンバーだけで施設を訪ね
②その後の3ヶ月は、毎週、日本人メンバーだけで施設を訪ね
し、イギリスに送って指導を仰ぎました。毎回、バンバン英語し、イギリスに送って指導を仰ぎました。毎回、バンバン英語し、イギリスに送って指導を仰ぎました。毎回、バンバン英語し、イギリスを実施する。その際の楽団員の様子を動画で撮影し、イギリスを実施する。3プロジェクトの途中で一度スカイで好メ出しがくるのです(笑)。③プロジェクトの途中で一度スカイでがました。その場で最後のトレーニングを受け、そしてもうではました。その場で最後のトレーニングを受け、そしてもうではました。その場で最後のトレーニングを受け、そしてもうではました。その場で最後のトレーニングを受け、そしてもうではませば、一度全員で高齢者施設を訪ねて、ワークショップを実施して終了と一緒に高齢者施設を訪ねて、ワークショップを実施して終行ないました。

られているので、「何が起きたの?」と驚かれていましたね。とうです。実際にこの後は、楽団員の特性に合わせてアサインして自分たちで運営しています。また、この活動では、ディレレすがです。実際にこの後は、楽団員にはかなり自信がついたこのプロセスを経たことで、楽団員にはかなり自信がついたこのプロセスを経たことで、楽団員にはかなり自信がついた

### 最初の一歩の踏み出し方とは?

しゃっていたのですが、本当にその通りだなあと思うんです。しゃっていたのですが、本当にその通りだなあと思いますが…い長津:ぜひもうお一人、質問をお受けしたいと思いますだっしゃらないようですね。それでは最後に私からお三方におらっしゃらないようですね。それでは最後に私からお三方におらっしゃらないようですね。それでは最後に私からお三方におらっしゃらないようですね。それでは最後に私からお三方におらっしゃらないようですね。それでは最後に私からお三方におらっしゃらないようですね。それでは最後に私からお三方におらっしゃっていたのですが、本当にその通りだなあと思うんです。しゃっていたのですが、本当にその通りだなあと思うんです。しゃっていたのですが、本当にその通りだなあと思うんです。しゃっていたのですが、本当にその通りだなあと思うんです。しゃっていたのですが、本当にその通りだなあと思うんです。

ぜひアドバイスいただけますと幸いです。具体的な施策でも、同じように意識の視点でもよいのですが、

文:今朝、起きしなに考えていたことですが…、「あの人がいる文:今朝、起きしなに考えていたことが一番大切ではないかなと思います。私たちの劇場が小さいから、顔が見えやすいからかもしれませんが、「あそこのスいから、顔が見えやすいからかもしれませんが、「あそこのスタッフさんやったら、受け入れてもらえるのではないかな」とお客さんに思ってもらえる劇場を目指すと、いい関係を築いてお客さんに思ってもらえる劇場を目指すと、いい関係を築いてもらえる劇場を目指すと、いい関係を築いてもられていかと思いました。

も、お客さんの意識も変わっていくはずですから。 トワーク)」でも同じ話題になりましたが、インクルーシブな活助やアクセシビリティに関する「窓口を明確化する」ことが第動やアクセシビリティに関する「窓口を明確化する」ことが第してください」という窓口を設けること。そこから劇場の意識も変わっていくはずですから。

ションにしてください。がんばってくださいね!mission」。あなた自身の情熱を、ぜひ組織全体のミッ柿塚:ワンフレーズでいうと「from passion to

ます。 長津:奥山さんからも、最後にコメントをいただければと思い

機動力になるのだとあらためて感じましたね。機動力になるのだとあらためて感じましたね。これに「共通のキーワード」がいくつかあることに気づきました。いた「共通のキーワード」がいくつかあることに気づきました。 立さんの「この人がいるから安心」という話は、第1回のゲストの皆さんもおっしゃっていました。私たち運営する側も「あい人に見てほしいんだ」と、具体的なお客さんの顔が浮かぶかの人に見てほしいんだ」と、具体的なお客さんの顔が浮かぶかの人に見てほしいんだ」と、具体的なお客さんの顔が浮かぶかいた。

景色があるんだなあ、と実感しました。だから、お互いの地域で必然的に導いてこられたもの。みなさんだから見える共通の教わったり、どこかで学んだのではなく、自ら試行錯誤する中ýストの皆さんがおっしゃるキーワードは、決して誰かから

るのではないかと思いました。アター京都が今から一歩を歩みはじめるための力強い支えになをもらって取り組んでいったらよいのではないかと、ロームシアター京都からコンタクトを取って、今後もアドバイスや刺激がどれだけ離れていようが、いつでも困ったときにはロームシ

メントをいただいて、今日の勉強会を終えたいと思います。回の勉強会を企画されたロームシアター京都の宮崎さんからコらが生まれたことが多かったように感じています。最後に、今り、クロスすることで、そこからさらに新しいアイデアや気づら、クロスすることで、そこからさらに新しいアイデアや気づらが出たことで、皆さんのいろんな提言や言葉が積み重なった巨津:奥山さんがおっしゃってくださったように、勉強会を3

活動でも、そうなるように目指していきたいと思いました。宮崎麻(ロームシアター京都):ゲストの皆さん、本日はさまで変質で楽しそうに参加されていたこと。ロームシアター京都のですが、今回の勉強会は、「劇場での鑑賞支援サービスを充実させた。今回の勉強会は、「劇場での鑑賞支援サービスを充実させだったのは、皆さんの写真や映像から見る参加者さんがみんなだったのは、皆さんの写真や映像から見る参加者さんがみんなどができた素晴らしい機会となりました。個人的に印象的だったのは、皆さんの写真や映像から見る参加者さんがみんな言語で楽しそうに参加されていたこと。ロームシアター京都の芸術(ロームシアター京都):ゲストの皆さん、本日はさま宮崎麻(ロームシアター京都):ゲストの皆さん、本日はさま

長津:本日も加えて全3回、勉強会を行ってきましたが、みなさんの経験や体験がいろいろ積み重なってきましたね。そしさんの経験や体験がいろいろ積み重なってきましたね。そしさんの経験や体験がいろいろ積み重なってきましたね。そしたいう言葉に表れているように、このお三方が先駆者でやってという言葉に表れているように、このお三方が先駆者でやってという言葉に表れているように、このお三方が先駆者でやってという言葉に表れているように、このお三方が先駆者でやってという言葉に表れているように、このお三方が先駆者でやってという言葉に表れているように、このお三方が先駆者でやっていけるか」という宿題をいただいたようにも感じています。本日は一度持ち帰って、チームで考えていきたいと思います。本日は一度持ち帰って、チームで考えていきたいと思います。本日は長津:本日も加えて全3回、勉強会を行ってきましたが、みなしているが、独立というによっている。

※一部編集の上、掲載しております